

令和6年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～		
	施策	16 介護保険（生活支援） 一住み慣れた地域で支え合いながら暮らせるまちを目指しますー		
重点プロジェクト		いきいき“元気・健康”プロジェクト		
総合戦略		安全・安心な暮らしを守るとともに、デジタルの力を活用した魅力ある地域を構築する		
主管課	福祉部 高齢福祉課	評価責任者		船津 誠
		評価日		令和7年6月2日
関連課		生活福祉課、地域福祉課、障がい福祉課、保健センター		
目標		高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まいを柔軟に組み合わせ提供する仕組みづくりである「地域包括ケアシステム」の更なる深化を進めます。		
施策目標の実現に向けた取組		（1）生活支援・介護予防サービスの充実 ○高齢者が日常的・自主的に取り組む地域ぐるみの介護予防活動を推進し、また、高齢者を含む多様な主体による生活支援活動を推進します。 ○介護予防による給付費抑制効果は明らかであるため、ひとりでも多くの人が介護予防に取り組めるよう医師会等専門職の協力を得て支援します。 （2）高齢福祉・認知症施策の推進 ○一人暮らしの高齢者などに対する地域による見守りや支え合いの仕組みを構築します。 ○認知症への正しい理解の啓発に取り組むとともに、認知症ケアの向上に向けた取組、成年後見センターとの連携を推進します。 （3）在宅医療・介護連携の強化 ○高齢期には慢性疾患を持ちながら在宅生活を送る人が多いため、入退院時や急変時などにおける医療と介護の連携体制を構築すると共に、市民や関係者にＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）『看取り』についての普及啓発を図ります。		

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は後期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策指標	指標1	指標名	認知症サポーター数（累計）【総合戦略】							
		説明	認知症サポーター養成講座は小中学校等での開催が定着しており順調に増えている。							
		単位	人							
	成果	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値	19,300	20,600	21,900	23,200	24,500	25,800	27,100	
		実績値	21,309							
	指標2	指標名	住民主体の通いの場【総合戦略】							
		説明	ふじみんびんしゃん体操を実施する自主グループは新規に2つ立ち上がり、活動中のグループも継続できている。							
		単位	箇所							
	活動	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値	45	49	53	57	61	65	69	
		実績値	46							
	指標3	指標名	びんしゃんサポーター登録数【総合戦略】							
		説明	びんしゃんサポーター養成講座に参加した12人が新たにサポーター登録した。							
		単位	人							
	成果	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値	215	230	245	260	275	290	305	
		実績値	216							
	指標4	指標名	多職種研修会参加延べ人数							
		説明	多職種研修会は2回ともオンライン開催となり、1回目157人、2回目115人の参加であった。							
		単位	人							
	成果	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値	300	330	360	390	410	430	450	
		実績値	272							
	指標5	指標名								
		説明								
		単位								
		年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
		目標値								
		実績値								

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
支出	事務事業費	393,573	0	0	0	0	0	0
	人件費	90,586	0	0	0	0	0	0
収入	特定財源	257,428	0	0	0	0	0	0
	一般財源	226,731	0	0	0	0	0	0

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は後期重点プロジェクトに該当する取組です。

	実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	低所得者に対する軽減措置の推進	高齢者の在宅生活を支えるため、指定居宅介護サービス等を利用する低所得者に対し、利用者負担額の一部を助成し、サービスの利用促進を図った。	介護サービス利用者負担金助成事業
取組②	【総合戦略】生活支援・介護予防サービスの推進	介護予防センター及び大井総合福祉センターで通所型サービスCを実施したほか、介護予防事業対象者把握事業として、70歳から87歳の人を対象に「はつらつ健康チェック調査票」による調査を実施した。	介護予防センターの延べ来所者数は35,752人で令和5年度33,501人より2,251人の増となった。通所型サービスCの参加者は33人と少なかった。「はつらつ健康チェック調査」を17,734人に送付、11,440人（回答率64.5%）の回答を得た。
取組③	【総合戦略】認知症の理解・普及啓発	「地域包括ケアシステム」の構築を図る取組として、認知症サポーター養成講座、認知症サポーターフォローアップ講座、認知症普及啓発イベント、オレンジカフェふじみん等を実施した。	認知症サポーター養成講座を市民、小・中学生、市職員等を実施した。また、地域の大学と連携し、認知症サポーターフォローアップ講座を実施した。認知症普及啓発イベントでは、認知症当事者による講演等を行い、240人以上の来場につながった。
取組④	【総合戦略】通いの場及び担い手の育成	新たな通いの場の立ち上げを行ったほか、介護予防サポーター養成講座を実施した。また、既存の通いの場には体力測定の実施や専門職を派遣するなどの継続支援を行った。	新たに通いの場を2か所立ち上げ、計46か所が活動している。介護予防サポーターは新たに12人養成し、累計養成者は216人となった。
取組⑤	【総合戦略】在宅医療・介護連携の強化	東入間医師会、富士見市、三芳町と連携して「医療・介護・地域資源情報提供システム」を導入し、関係者や市民に医療や介護、生活支援情報を提供できるようにした。また、会議や研修会を実施し、入退院支援や多職種連携を推進している。	「医療・介護・地域資源情報提供システム」の導入により市と医療・介護関係者間の連絡に係る事務負担の軽減につながった。多職種連携のための会議（3回）、研修会（2回）の実施により、参加者の裾野が広がった。

5. 評価

評価	
指標の達成状況	介護サービス利用者負担金助成事業においては、低所得者に対し、利用者負担額の一部の助成を継続的にっており、介護サービスの利用促進が図られている。
順調	地域包括ケアシステムの深化・推進に向け、地域包括支援センター及び介護事業所等と連携し、在宅医療・介護連携推進事業等の取組を進めている。
行政資源の活用	介護予防センター及び大井総合福祉センターでは、様々な事業や情報発信を行い、高齢者の介護予防や健康増進を促進した。また、介護予防事業対象者把握事業として、「はつらつ健康チェック調査票」を17,734人に送付し、11,440人（回答率64.5%）から回答を得た。前回実施した令和4年度と同等の回答率であり、今後、地域包括支援センターと情報を共有し、ハイリスク者の状況把握及び介護予防事業等への参加促進を進める。
おおむね適切	認知症施策については、認知症サポート医による認知症相談、認知症サポーター養成講座、認知症普及啓発イベント、認知症講座等の各種事業を実施したほか、令和6年10月からは、各地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、オレンジカフェの新規開拓や当事者発信に係る支援の充実を図った。
取組の有効性	
有効	
施策の効果	
効果が得られている	